

『麤幼略記』所記唐音の声類について（中古音分組表）

蔣 垂東

Table of Initials in Ancient Chinese in *Soyouryakuki*

Jiang Chuidong

提要

《麤幼略記》是一本成书于三百多年前日本江户时代的唐话资料，全书分21类，收575条词语，内容以纺织品类的货物名称为主。每条词语都以假名注记福州音和南京音两种汉语方言的读音，是研究近代汉语方言的珍贵资料。本文基于研究其福州音的目的出发，对其所注记的福州音和南京音进行了全面的整理，编排出中古音的分组表，以此展现两种方言音在声类方面的不同，为下阶段开展具体分析打下基础。

キーワード 唐話資料、唐通事、福州音、南京音、分組表

1. はじめに

唐話資料『麤幼略記』は、福州音、南京音二種類の唐音を有し、唐話・唐音の比較研究にとって貴重な資料であり、『(陽明叢書国書篇十四輯)中世国語資料』に収められるなど中世の日本語史料としても注目を集めている。

有坂(1938)は近世唐音を黄檗唐音、心越系唐音、訳官系唐音の三つに分けている。この三つは成立の背景に違いがあるものの、ベースとする方言はいずれも南京官話である¹。南京官話による資料が多い中、長澤(1974)が指摘したように福州音を記録する『麤幼略記』は大変珍し

い²。同資料については長澤（1974）、池上（1976）などによる書誌的な紹介はすでになされているが³、唐音の部分に関する具体的な研究がまだ少ない。蔣（2008, 2009, 2011）は同書の福州音と南京音との間に顕著な違いが見られ、その「福州音」の中には福州方言の特徴に一致する現象が多いことを指摘している。しかし、同書の唐音の実態を明らかにするためには声類、韻類、入声韻尾に対する全面的な考察を行うことが必要である。本稿は声類についての考察を対象としている。漢字音の考察においては、対象を中古音の枠組みに従って整理分類し、違いを浮かび上がらせた上、必要に応じて方言資料などを参照しつつ字母別に分析を行い、その実態を明らかにするという二段階からなる手順を踏むのが一般的である。本稿は、『麤幼略記』所記唐音の声類に関する考察の第一段階にあたるもので、すなわち、声類を中古音に沿って字母別に整理し、その分紐表を示すのが目的である。

2. 資料紹介

『麤幼略記』については前述したようにすでに長澤（1974）、池上（1976）などによる紹介があるが、分紐表の揭示に先立って、改めてその基本情報について確認しておく。

2.1 書名について

同書冒頭の「近間唐船載来麤幼雜貨憑他時用字説、頗略……」との

-
- 1 有坂（1938）によると、黄檗唐音には福州方言の混入例が若干見られ、訳官系唐音には『唐話纂要』『唐音和解』など杭州音によるものが一部に含まれている。
 - 2 福州音を反映する資料としては、新井白石『東音譜』（享保四年序）所収の五十音と福州音の対訳および東海平維章『朝野雜記』所収「長崎通事唐話会」に見られる数行の福州語の会話、それに黄檗唐音に僅かに存在していることが知られているが、いずれも内容量が大変少ない。長崎歴史文化博物館に「福州話二十四孝」と「福州話」を名称に掲げる資料もあるが、文章のみで、福州音が付されていない。
 - 3 『国書総目録』にも紹介が見られる。

説明から、唐船貿易で中国の貿易船によって日本（長崎）に運ばれてきたさまざまな商品（織物）の名称を唐音で言えるように簡単に記録したのが編集の目的であることがわかり、長崎唐通事関連の資料であることは明白である。書名は『麤幼略記』と書くテキストもある。「麤」は『説文解字』に「同粗」とあるように、「荒い、粗い」という意味で、「麤」は「麤」の俗字で、本文にも「粗 織地あらきを申也」とあるように、ここでは「織地の粗い」織物を指す。一方、「幼」については、本文に「幼 織地の細かな事を申也」とあるが、「幼」のもつ「幼い」という本来の意味とは合わない。福州方言では、「幼」は「幼い」の他に、「精細、柔らかい」との意味もあるので、「幼」は福州方言の意味に沿った言い方であることがわかる⁴。

2.2 時代背景

鎖国政策の中、長崎に入国できる外国の貿易船は清国とオランダに制限され、唐船貿易の遂行にあたって慶長八年（1603）に唐通事が置かれた。以後、幕末まで南京（官話）、福州、漳州と、唐船の出港地方面別に合わせて南京官話、福州語、漳州語を操る通事を養成する唐通事制度が続いた。3種類の唐話の内、共通語的地位にあった南京官話が主要な立場にあった。それゆえ、福州語と漳州語の通事達も南京官話の知識を有することが求められた。福州音と南京音二種類の唐話を記載する『麤幼略記』はこうした背景を反映したと考えられる。

2.3 テキスト

テキストはいずれも写本で主要なものとして以下が知られている。

⁴ 『国書総目録』に『粗細略記』の名称も見られるが、福州方言を知らない人による書き換えの結果と推測される。

- ・唐話辞書類集第16集所載明和（1764～1772）頃の写本（以下、明和本とする）
- ・陽明文庫豫楽院近衛家熙（1667～1736）筆手鈔本（以下、陽明文庫本とする）
- ・名古屋市立鶴舞中央図書館所蔵河村秀穎（1718～1783）旧蔵本（以下、河村本とする）
- ・名古屋市蓬左文庫所蔵小寺玉晃（1800～1878）手写本（以下、小寺本とする）

『唐話辞書類集（第16集）』では、長澤（1974）が明和頃の写本を底本に、陽明文庫本と河村本を使って校合している。この明和本の外題は『麤幼雜貨譯傳』で、内題は『麤幼略記』となっている。陽明文庫本は、『陽明叢書国書篇第14輯』中世国語資料』に収められて財団法人陽明文庫により1976年に影印出版され、池上禎造氏による解説がついている。

池上（1976）によると、上記のテキスト以外に今は所在が不明となっているが、もう一本三好學博士旧蔵の怡顔齋蔵本がある。この怡顔齋蔵本には松岡玄達（1668～1746）の自筆による外題と「享保拾六辛亥年季春九日 怡顔齋蔵本」の奥付があり、外題は『麤幼雜貨訳伝』、内題・奥題は『麤幼略記』で、上記の明和本とは字配りなどが酷似しているが、小異があるという。各本の関係については、長澤（1974）が指摘されるように明和本と陽明文庫本は同一系統であり⁵、河村本は、この両本と語彙の順多少異なり、発音の仮名に誤写のみか、脱落がある他、本文で織物関係以外の末の「參、鯨皮、香木、皮甲、珠石」の五類を欠いている。小寺本は、河村本に末葉の一葉分を脱したのをそのまま転写している。

⁵ 明和本は、転写に際し、一行脱したところ数か所あり、数行後に補写して、符号で前にあることを示している。その符号による補正の順は陽明文庫本と同じである。

本稿は現存最古の陽明文庫本に拠るが、明和本を参照にしている。

2.4 構成

陽明文庫本は、表題は『麤幼畧記全』で、縦25.6センチ、横16.5センチ。内題や奥書がなく、一面7行で、罫紙全48枚となっている。一頁目の表裏は下記21分類の類別名で、二頁以降47頁まで分類に沿って、織物を中心とした商品名を延べ575項目掲載、48頁目は遊紙である。

サヤ 網 (1～50)	チリメン 紗 (51～63)	リンズ ⁶ 綾 (64～89)	トンス ⁷ 緞 (90～123)
ピロウド 絨 (124～128)	ケン 絹 (129～145)	ロ 羅 (146～154)	
シヤ 紗 (155～164)	イト 絲 (165～171)	ワタ 綿 (172～178)	
ヨリイト 線 (179～193)	ケルイ 羯 (194～206)	モメン 布 (207～245)	ヌノ 夏布 (207～245)
モウセン 氈 (246～254)	タンモン 疋頭 雑事 (255～309)	ソメイロ 染色 (310～354)	
ニンジン 参 (355～371)	サメ 鯨皮 (372～387)	カウボク 香木 (388～422)	
カワコウ 皮甲 雑色 (423～486)	タマイシ 珠石 雑色 (487～575)		

全項目にわたって、見出しに中国語の名称を掲げ、左右に二種類の唐音を片仮名で振り、「右ハ南京音 左は福州音」と注記している。その下には当該項目の日本語を示している。

2.5 唐音の表記法

唐音の表記は、複数の仮名を組み合わせることによる反切法を多用している。例えば、「西」の福州音 [se] がスエとなっているのは、スの子音 [s] とエの母音 [e] の組み合わせで表記したものである。声調は無

6 明和本の振り仮名はドンス。

7 明和本の振り仮名はピロウド。

表記となっている。

近世唐音では唐音の表記に多くの補助記号が使用されているが、同書では右肩の圏点「°」の1種類のみが見られ⁸、主としてハ行とタ行のテ・ト⁹に用いられている。他の近世唐音資料と同じく、この圏点は半濁音符ではなく仮名通りに発音してはならないことを注意するための注意点である。

宝パウ=[pau]、畢ピツ=[piʔ]、布プウ=[pu]、白ペエ=[pəʔ]、
皮ポイ=[puoi]、地テ°イ=[ti]、定テ°ン=[tiŋ]、
猪ト°ウ・苧ト°イ=[ty]、土ト°ウ=[tʰu]、妬ト°ウ=[tu]

2.6 誤記などについて

同書の「福州音」と「南京音」には取違いと思われる例が存在する。例えば、

(細類) 雙林 サアンリン (福州音) ソンリン (南京音)

「雙」(江撰)の唐音は「ソン」「サアン」の二種類で、「ソン」が南京音となっているが、南京音とは一致できず、他の南京音を反映する唐音資料からも「サアン」の方が南京音に相応しいことが分かる。一方、「サアン」が福州音とされているが、同書での用法では江撰の字がオ段になるのが一般的であることから、「ソン」でなければ適切な説明が得られない。このように「雙」に対する福州音と南京音が取違いになっている可

⁸ 右肩の圏点°は河村本で濁音符となり、明和本で欠くことが多く、陽明文庫本系との間に見られる差になっている。

⁹ チ・ツが破擦音化したため、[ti] [tu] に対応する仮名がなくなったため、テ・トに補助記号を付けて [ti] [tu] と読ませるための工夫。

能性が高い。また、南京音には福州音による混入と思われる例が多数存在する。例えば、入声韻尾について同書の南京音は無表記となっているのに対し、福州音が「一ツ」「一ク」二種類の表記が見られ、両者の違いは歴然である。しかしながら、

（珠石類）一東 ソツスヲク（福州音） イ、スヲク（南京音）

この例では、入声の「東」に対する南京音は福州音と同じ「スヲク」で、入声韻尾が「一ク」となっている。明らかに福州音による混入である。南京音に福州音が多く混入しているのは、福州語の通事の南京官話に対する理解が不十分だったということを反映するものと推測される。

3. 分紐表

『麤幼略記』の唐音が付されている全ての字を中古音に従って、唇音、舌音、牙音、歯音、喉音の5つのグループに分けて声母別に整理している。その際、来母を舌音、日母を歯音のグループに入れている。唇音については、中古音は重唇と軽唇を分けないが、顕著な違いが見られるため、重唇音と軽唇音を分けて示している。番号は通し番号である。声母内の唐音の配列の順番は初出に拠っている。「福州音」の欄には同書の説明に従って左側の唐音を、「南京音」の欄には同じように右側の唐音を記入している。

『麤幼略記』唐音の中古音分紐表

・唇音

	字母	例 字	福州音	南京音			
重唇音	幫p	北 14 ¹⁰ , 244,	ボク	ボ			
		板 65 ¹¹ , 66 ¹² , 151 ¹³ , 548	パン	パン			
		八 96, 98 ¹⁴	ベツ	パア			
		班 116 ¹⁵ , 178 ¹⁶ , 268	パアン	パアン			
		氷 162 ¹⁷ , 408	ピエン	ピン			
		貝 175	ポイ	ポイ			
		杷 194 ¹⁸	パア	パア			
		畢 202 ¹⁹ , 203 ²⁰	ピツ	ピイ			
		布 207, 208, 209 ²¹ , 210, 212, 213, 214, 217, 218, 219, 220, 221, 222, 223, 225, 226, 227, 228, 229, 230, 231, 232, 236, 237, 238, 239, 241, 242, 243, 244, 245, 257, 258, 259	プウ	プウ			
		本 237 ²² , 278, 346	ポン	プエン			
		包 259, 297	パウ	パウ			
		半 291	プワン	プワン			
		寶 354, 482	ポウ	パウ			
		豹 424	鼈 460 ²³	膘 531	餅 538	把 573	ハア
	パイ						ベ
	ピヤウ						ピヤウ
	ピヤン						ピン
	ヘエ						ハア
	滂p ^h	片 121 ²⁴ , 205 ²⁵ , 408, 409, 410	漂 208	241	ペン	ペン	
					ピヤウ	ピヤウ	
ピエウ					ピヤウ		

10 明和本の福州音はボク。

11,12 明和本はパン。

13 明和本圏点無し。

14 明和本の福州音はベツ。

15,16,17,18,19,20,21 明和本圏点無し。

22 明和本は濁点。

23 明和本の南京音はベ。

24,25 明和本圏点無し。

『麤幼略記』所記唐音の声類について（中古音分紐表）

	字母	例 字	福州音	南京音
重唇音	滂p ^h	疋 255, 256, 257, 263, 290 ²⁶ , 291 ²⁷ 票 260 泡 355 珀 490, 491, 492, 493, 494, 495, 524, 556 礪 528	ピツ ピエウ パウ ペク パアン	ピ ピヤウ パウ ペ ペン
	並b	白 15 ²⁸ , 131 ²⁹ , 180 ³⁰ , 181 ³¹ , 207 ³² , 208, 225 ³³ , 241, 321, 357, 360, 412, 454, 470 盤 35 ³⁴ , 59 82 ³⁵ , 108 ³⁶ , 154 ³⁷ 皮 125 ³⁸ , 258, 383, 395, 422, 423, 424, 425, 426, 427, 429, 431, 432, 433, 434, 435, 436, 437, 438, 439, 440, 441, 442, 443, 444, 445, 446, 447, 448, 449 386 薄 177 ³⁹ 蚌 494 瓶 547 蒲 549 菩 551 梵 554 抱 557	パ プワン フワン プワン ポイ ホイ ポク フワン パアン フウ プウ フワン パウ	ペエ ハアン ハアン パアン ピイ ピ ポ フワン ピン プウ プウ フワン パウ
	明m	綿 45, 172, 173, 174, 5, 176, 177, 178, 蜜 101 帽 113 麻 157, 239	メン メツ モウ マア	メン ミツ マウ モフ

²⁶ 明和本の南京音はピ。

²⁷ 明和本の福州音はピツ。

²⁸ 明和本の福州音はバア。

^{29,30,31} 明和本圈点無し。

^{32,33} 明和本の南京音はベエ。

³⁴ 明和本の福州音はフワン。

³⁵ 明和本の福州音はプワン、南京音はパアン。

^{36,37} 明和本の福州音はフワン、南京音はハアン。

^{38,39} 明和本圈点無し。

	字母	例 字	福州音	南京音
重唇音	明m	毛 206, 250, 473, 474, 475	モフ	モフ
		捫 221	モヲン	モン
		米 224, 527	ミイ	ミイ
		霉 270	ムイ	ムイ
		木 313, 365, 424, 418, 419	モク	モ
		梅 380, 409	ムイ	ムイ
		美 385	ミイ	ミイ
		母 387, 431, 516, 559	ムウ	ムウ
		磨 394	モフ	マフ
		買 417	モイ	マイ
		末 434	マツ	メツ
		瑁 461	ポイ	モフ
		馬 468	マア	マア
		瑪 497	マア	マア
明 520	メン	ミイン		
軽唇音	非f	粉 43, 267, 315, 398	フヲン	フン
		府 94, 95, 96, 114	フウ	フウ
		發 270	フワツ	フワツ
		幅 286, 287	フウク	フウ
	敷f ⁴⁰	紡 5	パン	フワン
	奉v	魴 372, 373, 374, 375	ハン	フワン
		梵 554	フワン	フワン
	微m	萬 33, 352	ウワン	ワン
		紋 37, 38, 119, 226	モヲン	ウン
		網 240	マン	ワン
尾 360 ⁴¹		ポイ	ピイ	
456 ⁴¹ , 468 ⁴² , 469, 472		ポイ	ピイ	

40 明和本の南京音はピイ。

41 明和本の南京音はポイ。

42 明和本の福州音はポイ。

『麤幼略記』所記唐音の声類について（中古音分紐表）

	字母	例 字	福州音	南京音
	微m	沕 377 無 382	モヲツ ムアフ	ウツ ムウ、

・舌音

	字母	例 字	福州音	南京音
舌 頭 音	端t	東 46, 63, 78, 98, 212, 308, 385 哆 199, 200 掇 265 妬 314 單 345 丁 401 ⁴³ 紹 443 膽 276 胆 277 頂 502 燈 546 丹 561 刀 575	トヲン トフ ケウ ト°ウ タアン テエン テヤウ タアン タアン テン テン タアン トフ	トヲン トフ テツ ト°ウ タアン テイン テヤウ タン タン テン テイン タアン タウ
	透t ^h	土 25 ⁴⁴ , 171 ⁴⁵ , 365 ⁴⁶ , 382 踏 39 套 53, 284 通 60 天 122, 124, 316, 467 毳 248, 249, 250, 251 鐵 419	ト°ウ タア タフ トヲン テエン タン テツ	ド タフ タア トヲン テン タン テ
	定d	大 1 ⁴⁷ , 2 ⁴⁸ , 17, 26, 51, 57, 70, 71, 95, 104, 148, 215, 310, 318, 330, 535	トワイ	タア

43 明和本の福州音はチエン。

44 明和本の福州音はドウ。

45 明和本の福州音はトウ。

46 明和本の福州音はドウ。

47,48 明和本の福州音はトウイ。

	字母	例 字	福州音	南京音
舌頭音	定d	塘 23, 桃 27, 508, 549 地 31 ⁴⁹ , 347 ⁵⁰ 條 34, 58, 81, 107, 127, 153, 164, 223, 230, 246, 295, 369 緞 90, 91, 92, 94, 95, 96, 97, 98, 99, 100, 101, 102, 103, 104, 105, 106, 107, 108, 109, 115, 116, 117, 119, 202, 203 肚 174 ⁵¹ 頭 233, 244, 260, 378 断 276 ⁵² 定 277 桃 311, 508, 549 淡 322 銅 339, 532 檀 411, 412, 413, 415, 416 玳 461 圖 505 代 513 豆 525 黛 537 藤 539 提 551 錠 562	トン トフ テ°イ テヤウ トワン ト°ウ タウ ト°ヨン テヤン トフ タアン タアン タアン タイ トウ タアイ タウ タアイ テイン テエ テヤン	トン タウ テ°イ テヤウ トヨン ト°ウ テウ ダアン デン タウ タアン トヨン タン タアイ トウ タイ テウ タイ テイン テエ テイン
	泥n	南 79 泥 372 楠 388, 389, 395 腦 407	ナアン トウ ナアン ノフ	ナン ニイ ナアン ノフ

⁴⁹ 明和本の福州音はデイ、南京音テイ。

⁵⁰ 明和本の南京音はチ°イ。

⁵¹ 明和本圈点無し。

⁵² 明和本の福州音はドヨン。

『麤幼略記』所記唐音の声類について（中古音分紐表）

	字母	例 字	福州音	南京音
	泥n	璫 497	ノフ	ノフ
舌上音	知t	中 6, 7, 54, 72, 73 猪 174 ⁵³ , 474, 475 335 着 282, 283 竹 333 珍 500 張 566	テヨン ト°ウ トウ テヨク テヨク テイン テヨン	チヨン チヨ チヨ ツヲク ツヲク テイン チヤン
	徹t ^h			
	澄d	紬 1, 2, 6, 7, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 25, 26, 27, 28, 29, 30, 32, 33, 34, 35, 36, 37, 38, 39, 40, 41, 42, 43, 44, 45, 47, 48, 50 重 3, 4 潮 20 柱 49 長 52, 280 冲 114 苧 238 籌 262 沉 337 ⁵⁴ , 390, 398 茶 338, 544 澤 454 虫 466	テウ テヨン テヤウ テヤウ トン チヨン ト°イ テウ テイン タア テク テヨン	チウ ツラン チヤウ ツウ チヤン チヨン ト°イ チウ テイン ツア テク テヨン
	娘n	女 140 咩 ⁵⁵ 199, 200, 201	ルウ ニイ	ニイ ニイ
	来l	潞 19 林 24	ロヲウ リン	ロウ リン

⁵³ 明和本の福州音はトウ。

⁵⁴ 明和本の福州音はチイン。

⁵⁵ 『広韻』未収。No.199, No.200の表記は「哆羅呢」が一般的であることから「呢」と同音と見なす。

字母	例 字	福州音	南京音
来	藍 30, 320	ラアン	ラアン
	柳 34, 58, 81, 107, 127, 153, 223, 230, 327	リウ	リウ
	力 47, 48	ラツ	リヨ
	綾 64, 65, 66, 67, 68, 69, 70, 71, 72, 73, 74, 75, 76, 77, 78, 79, 80, 81, 82, 83, 84, 85, 86, 87	リン	リン
	羅 85, 146, 147, 148, 149, 150, 151, 152, 153, 154, 163, 225	ロフ	ロフ
	朗 102 ⁵⁶ , 144, 145	ロヤン	ロヤン
	六 105, 111,	レク	ロ
	料 113, 284, 396, 397	リヤウ	リヤウ
	裡 130, 141	リイ	リイ
	里 167	リイ	リイ
	鐺 46, 169	ルイ	ルイ
	囉 199, 200	ロフ	ロフ
	雷 222	ルイ	ルイ
	蠟 233, 492, 555	ラツ	ラ
	連 292, 293	リヤン	レエン
	領 296, 568	リヤン	リン
	緑 324, 325, 326, 327, 328, 437, 532, 533, 534	レク	ロ
	濫 376	ラアン	ラン
	鹿 380, 426	ロク	ロ
	龍 403, 407, 441, 557	リヨン	ロン
	零 406	レン	レン
	陵 406	リヨン	リン
	梨 418, 419	リイ	リイ
	驢 442	ルウ	ルウ
	狼 445	ロン	ロン
	狸 446	リイ	リイ
	羚 458	リイン	リイン
	理 462	リイ	リイ

⁵⁶ 明和本の南京音はロウん。

『麤幼略記』所記唐音の声類について（中古音分紐表）

	字母	例 字	福州音	南京音
半舌音	来l	卵 486	ノン	ラアン
		瑠 498, 546, 547, 548	リウ	リウ
		璃 498, 546, 547, 548	リイ	リイ
		盧 510 ⁵⁷	ロフ	ロフ
		礪 529	ロウ	ロ
		硫 541	リウ	リウ
		蘭 545	ラアン	ラン
		簍 563	ラウ	レウ
		粒 571	リヤツ	リウ

・牙音

	字母	例 字	福州音	南京音
牙音	見k	京 9, 46, 63, 78, 212, 220, 361	キイン	キイン
		廣 22, 79, 97, 98, 156	クワン	クワン
		界 31	カイ	キヤイ
		錦 32, 61, 92, 93, 120, 121, 122, 211, 374, 381	キン	キン
		加 39, 233, 280, 281	カウ	キヤア
		繭 44, 170, 219	キヤン	ケエン
		機 86, 87, 202, 278, 285	キイ	キイ
		机 288, 289	キイ	キイ
		夾 88	コイ	コ
		金 90, 126, 217, 329, 360, 362, 420, 436, 491, 521, 552, 561, 562	キイン	キイン
		各 98	コク	コ
		梗 106, 341	ケン	キイン
		嘉 118, 177	カア	キヤア
		官 129, 324	クワン	クワン
		絹 129, 130, 131, 132, 133, 134, 135, 136, 137, 138, 139, 140, 141	キイン	キン
		光 139, 222, 271	クワン	クワン

⁵⁷ 明和本の福州音はロウ。

	字母	例 字	福州音	南京音
牙 音	見k	吉 175	キツ	キイ
		経 190	キイン	キイン
		羯 195, 197, 204	ハツ	カツ
		姑 196	コウ	クウ
		葛 234, 242	カツ	カツ
		江 235	カアン	キヤン
		欄 265	カン	ケン
		假 307, 495	カア	キヤア
		哥 332	コフ	カフ
		根 333	ケエン	キン
		肝 335	カアン	カン
		古 339	クウ	クウ
		交 353	カウ	キヤウ
		楨 356, 358, 360	コラン	コン
		角 363, 453, 454, 455, 456, 457, 458	クヨク	クヲ
		鯁 377 ⁵⁸	キエン	ゲン
		閣 379	コク	クヲ
		剛 420	コン	カン
		剛 452	コウ	カン
		訣 420	クワツ	ケ
		牯 428, 429, 430	カン	キヤン
		甲 432, 459, 460, 463, 464	カツ	カフ
		狗 447, 482	カウ	ケウ
		羔 448	カウ	カフ
		骨 451 ⁵⁹ , 478	クヲツ	クヲ
		龜 459	クイ	クイ
		筋 465 ⁶⁰	ケエン	キン
		豹 475	ホフ	ハフ

⁵⁸ 明和本の南京音はゲン。

⁵⁹ 明和本の南京音はクツ。

⁶⁰ 明和本の福州音はゲエン。

『麤幼略記』所記唐音の声類について（中古音分紐表）

	字母	例 字	福州音	南京音
牙音	見k	鶏 486	ケエ	キイ
		潔 493	キヤツ	ケツ
		甘 510	カン	カン
		干 514	カアン	カン
		膏 517	コフ	カウ
		鏡 545	キヤン	キイン
		鐘 564	クワン	クワン
	溪k ^b	軽 12	キイン	キイン
		曠 42	クワン	クワン
		巧 155, 285	キヤウ	キヤウ
		扣 187	ケウ	ケウ
		口 251	ケウ	ケウ
		款 264	クワン	クワン
		潤 281, 286, 289	クワツ	クワツ
		塊 294, 533	トイ	クワイ
		網 298	クワン	クワン
		孔 472	コン	コン
		起 511	キイ	キイ
		群g	裙 8	クワン
	棋 35, 59, 82, 108 ⁶¹ , 154		キイ	キイ
	捲 64		クワン	ケン
	卷 76		クワン	ケン
	掘 233		クワツ	ク
	件 264, 299		キヨン	ケン
	茄 342, 526		ケウ	キヤウ
	狂 376		コワン	コン
	奇 384, 388, 395		キイ	キイ
	伽 389		キヤア	キヤア
	竭 485		キヤツ	キツ

⁶¹ 明和本の見出しは祺。

	字母	例 字	福州音	南京音
牙音	群g	磔 496	クウ	コ
	疑ŋ	牛 48, 144, 145, 425, 455, 479, 558	グウ	ギウ
		465 ⁶²	クウ	キウ
		銀 91,	クエン	イン
		164, 312, 530	グエン	イン
		五 112, 184	グウ	ウ、
		193	クウ	ウ、
		鶯 124, 331	ガア	キヤウ
		迎 235	ゲン	ゲエン
		月 321	グヲツ	エ
		原 363	グヲン	エン
		魚 484	グウ	イ、
		彦 384	ガアン	ゲン
		研 396	ガアン	ゲン
牙 452	ゲエ	ガア		

・ 歯音

	字母	例 字	福州音	南京音
歯頭音	精ts	仔 13, 89 ⁶³ , 190 ⁶⁴ ,	キヤア	ツウ
		椒 40, 350	チヤウ	チヤウ
		尖 88, 211, 240, 378, 457 ⁶⁵	チエン	チイン
		紫 106, 340, 341, 415, 561, 562	チイ	ツウ
		漿 152	チヨン	チヤン
		棗 186, 481	ツヲ	ツヲ
		剪 192	チヤン	チエン
		子 194, 195, 249, 549, 550, 551, 552, 553, 554	ツウ	ツウ
		醬 213, 336	チヨン	チヤン
		蕉 243	チエウ	チヤウ

62 明和本の福州音はグウ、南京音ギウ。

63,64 明和本の福州音はキヤウ。

65 明和本の福州音は欠く。

『麤幼略記』所記唐音の声類について（中古音分紐表）

	字母	例 字	福州音	南京音
齒頭音	精 ^ㄐ	漿 266 宗 301 礁 379 撈 417 雀 472 鳥 473 晶 501 鑽 515	チヨン ツヨン タア サク チヨク チヤウ チイン ツワン	チヤン ツヤン チヤウ ソフ チョ ニヤウ チイン スワン
	清 ^ㄑ	青 50, 115, 220, 316, 317, 318, 333, 535, 536, 537, 543 紕 89 秋 109 七 110, 167 采 123 粗 210, 272, 305 簽 262 清 279 全 287, 290, 430 淺 328 切 371 刺 375 翠 473 艸 504	ツアン ツウ チウ チイツ ツアイ ツウ チヤン チイン ツワン チヤン チエツ チイ ツイ ツアウ	チン ツウ チウ チイ ツアイ ツヲ チエン チイン ツワン チエン チエ ツウ ツイ ツヲ
	從 ^ㄑ	字 33, 261, 352 ⁶⁶ 蠶 467	ヂイ ツアン	ツウ ツアン
	心 ^ㄑ	絲 5, 28, 96, 98, 110, 111, 112, 165, 166, 167, 168, 169, 170, 171, 173, 179, 180, 182, 228, 256, 466, 467 小 10, 11, 56, 74, 75, 100, 201, 216, 368 素 16, 17, 68, 142, 347	シイ シヤウ ソウ	スウ シヤウ スウ

⁶⁶ 明和本の福州音はチイ。

	字母	例 字	福州音	南京音
齒頭音	心s	色 29, 98, 160, 184, 185, 193, 213, 237, 322, 334, 335,	セク	スエ
		336, 337, 338, 339, 341, 342, 343, 344, 345, 346,	シヤン	スエン
		347	テ°イ	テ°イ
		線 41, 99, 136, 179, 180, 181, 182, 183, 184, 185, 186, 187, 188, 189	シヤン	スエン
		西 23, 55, 87, 229, 230, 253, 254, 309	スエ	シイ
		繡 93	シウ	シウ
		宋 120	ソヤン	ソヤン
		仙 122	セン	セン
		新 166	シイン	シイン
		綉 191	シウ	シウ
		細 302	シイ	シイ
		雪 323	スヲツ	スエ
		碎 351, 370	ツイ	ツイ
		鬚 367	スウ	スウ
		鞞 386	シヤウ	シヤウ
		削 397	チエク	スエ
		息 405	スエ	スヲ
		三 432	サアン	サアン
		犀 453	サアイ	サイ
		珊 487, 488, 489	サアン	サン
	錫 506	シヤア	スエ	
	相 550	シヨン	シヤン	
	思 550	スウ	スウ	
	蘓 560	ソウ	スウ	
	箱 569	シヨン	シヤン	
	邪z	斜 38, 119, 226,	シヤア	シヤア
象 231, 452		チヨン	チヨン	
涎 403		シヤン	セン	

『麤幼略記』所記唐音の声類について（中古音分紐表）

	字母	例 字	福州音	南京音
正 齒 二 等	莊 ^{ts}	莊 9 窄 288 皺 383 爪 450	ツラン ライ シヤウ ジヤウ	ツヨン カイ シヤウ ツアウ
	初 ^{tsʰ}	挿 360 礎 496	ツア チヤア	ツア チエ
	崇 ^{dz}	庄 55 柴 394, 421	ツラン ツア	ツラン ツアイ
	生 ^s	雙 8, 24, 293, 紗 51, 52, 53, 54, 55, 56, 57, 58, 59, 60, 61, 62, 63, 84, 85, 155, 156, 157, 158, 159, 160, 161, 162, 163, 164, 383 生 62, 134, 踈 103 水 139, 279, 322, 501, 512 山 197, 198, 385, 447, 449, 463, 464, 507, 篩 224 数 263 閃 97, 344 參 355, 361, 362, 367, 368, 369, 370, 371 砂 520, 521, 522, 523, 524, 525, 526, 527, 528, 529, 533	サアン サア スアン ソウ ツイ サン タイ スウ シヤン スエン サア	ソン サア スエン ソウ スイ サン タイ スウ セン シイン サア
正 齒 三 等	章 ^ʧ	折 66 摺 69 ⁶⁷ 招 143 芝 178 支 203, 567 織 215, 216, 277 毡 246, 247, 252, 253, 254 蛀 275	チエツ シエフ チヤウ チイ チイ チイツ チヤン ツウ	ツウ シイ チヤウ ツウ ツウ チイ チエン ツウ

67 明和本の福州音はシエツ。

	字母	例 字	福州音	南京音
正 齒 三 等	章ㄓ	眞 306, 399, 499	チイン	チイン
		深 340	チエン	チイン
		枝 353, 364, 488,	キイ	ツウ
		珠 382 ⁶⁸ , 387, 489, 499, 500, 502, 503, 504,	ツウ、	ツウ、
		梔 416	チヤン	チイン
		獐 427, 433	チヨン	チヨン
		赭 513	チヤウ	チエ
		朱 522, 530, 531	ツウ	ツウ
		脂 538	チイ	ツウ
	昌ㄓ ^h	春 36, 109, 245,	ツヨン	ツヨン
		尺 52	チヨ	チ
		川 251, 464	ツワン	ツワン
		赤 358, 359, 416	チヤウ	チエ
	穿 463	ツワン	ツワン	
	船ㄔ	麝 402	シヤア	スエ
		神 400	シイン	シイン
		蛇 421, 440, 478, 480	シヤア	スエ
		串 572	ツヨン	ツワン
	書ㄓ	失 47	スエツ	シイ
		手 76	チウ	シウ
聲 255		シヤン	シイン	
鼠 276, 442, 443,		ツウ	ツウ	
世 384		スエ	スウ	
東 393, 574		スヨク	スヨク	
書 505		スウ	スウ	
常ㄔ	寔 48	スエツ	シイ	
	躡 83	ツヨン	ツワン	
	熟 137	スヨク	シヨク	
	市 166 ⁶⁹	チイ	ツウ	

⁶⁸ 明和本の南京音はツウ。

⁶⁹ 明和本の福州音はテイ。

『羸幼略記』所記唐音の声類について（中古音分紐表）

	字母	例 字	福州音	南京音
正 齒 三 等	常 ₃	石 317, 505, 506, 507, 508, 509, 510, 511, 512, 513, 514, 515, 517, 518, 519,	シヨ	シ
		樹 422, 487	チウ	スウ
		壽 507	シウ	シウ
		辰 523	シイン	シイン
半 齒 音	日 ₁	二 3, 123, 392	ニイ	ルウ
		絨 124, 125, 126, 127, 128, 192, 193, 196, 204, 205, 206, 218, 191 ⁷⁰	ジヨン	ジヨン
		児 140, 141, 544	ヂイ	ルウ
		軟 161, 304	ノン	ナアン
		染 349	ニエン	ズエン
		肉 366	ジヨク	ジヨ
		乳 404	ズウ	スウ

・喉音

	字母	例 字	福州音	南京音
喉 音	影 [?]	温 18	ウワン	ウワン
		衣 142, 283	イ、	イ、
		烏 206, 221, 319, 414, 435,	ウ、	ウ、
		幼 209, 273, 303,	イウ	エウ
		印 214 ⁷¹ , 348 ⁷²	イエ	イン
		一 294, 295, 296, 297, 298, 299, 300, 301, 563, 564, 565, 566, 567, 568, 569, 570, 571, 572, 573, 574, 575	ソツ	イ、
		391	イツ	イ、
		暗 325	アン	アン
		鸞 332	イエ	イ、ン
		安 405	アン	アン
		鴉 410	ア、	ヤア、

⁷⁰ 明和本の福州音はジヨン。

^{71,72} 明和本の見出しは卯。

	字母	例 字	福州音	南京音
喉音	影ʔ	驪 469, 470, 471	イ、ン	イン
		燕 483	ヤン	エン
		窩 483	アフ	アフ
		煙 509	ヤン	エ、ン
		臙 538	ヤン	エン
		碗 542, 543	ウワン	ワン
		菓 542	ヨク	ヨ
		阿 545	アフ	アフ
		益 559	エク	エ
		甕 565	ウエン	エン
	曉h	花 1, 6, 10, 40, 27, 28, 42, 60, 67, 70, 72, 74, 95, 99, 101, 102, 103, 104, 105, 128, 135, 145, 149, 150, 158, 176, 214, 217, 224, 247, 248, 342, 348, 349, 350, 351, 352, 353, 354, 409, 418, 508	フア	フア
		漢 94, 95, 96, 114	ハアン	ハアン
		虎 125, 373, 423, 450, 451, 477 ⁷³	フウ	フウ
		灰 232, 343	ホイ	ホウ
		海 234, 441, 442, 521	ハイ	ハイ
		朽 274	チウ	ヒウ
		貨 302, 303, 304, 305, 306, 307, 308, 309	ホフ	ホフ
		血 334, 484, 485	ヘツ	ヘ
		香 337 ⁷⁴ , 390, 391, 392, 393 ⁷⁵ , 398, 399, 400, 401, 402, 403, 404, 405, 406, 411	ヒヨン	ヒヤン
		火 343, 486, 503	ホフ	フウ
獐 474	ホフ	ハフ		
琥 490	フウ	フウ		
556	プウ	プウ		

⁷³ 明和本の福州音はヒエン。

⁷⁴ 明和本の福州音はピヨン、南京音はピヤン。

⁷⁵ 明和本の福州音はピヨン、南京音はピヤン。

『麤幼略記』所記唐音の声類について（中古音分紐表）

	字母	例 字	福州音	南京音
喉音	匣h	杭 21, 77 ⁷⁶ , 147, 189, 252	ホン	ハン
		紅 26, 28 ⁷⁷ , 57, 80, 150, 159, 182, 183, 199, 310, 311, 312, 313, 314, 315, 366, 438, 471	エ、ン	ホヤン
		黄 132, 168, 329, 330, 331, 413, 444, 445, 479, 480, 519, 539, 540, 541, 558	ウヤン	ワン
		畫 138	ウワア	ワア
		湖 146, 165, 172, 188	フウ	フウ
		鶴 198, 502	ホク	フヲ
		夏 236, 241	ハア	ヒヤア
		號 261	ホフ	ホフ
		痕 269	ホヤン	ホヤン
		滑 271, 518	クヲツ	クヲ
		項 300	ハン	ハン
		鬣 334	ハウ	ハウ
		胡 350	フウ	フウ
		棍 357, 359	コヤン	コン
		降 399	コヤン	キヤン
		護 400	ホウ	フウ
		鬚 428	フウ	フウ
		狐 446	フウ	フウ
		脛 451	キイン	キイン
		瑚 487, 488, 489	ホフ	フウ
	寒 512	ハアン	ハン	
	孩 544	ハイ	ハイ	
	櫛 553	フワン	フワン	
	丸 555, 556, 557, 558, 559, 560	ワン	ワン	
	合 560	カツ	ユ	
	匣 570	アフ	アフ	
	于j	雲 118, 227, 516	フヤン	イン

⁷⁶ 明和本の福州音はボン、南京音はパン。

⁷⁷ 明和本の福州音はユ、ン。

	字母	例 字	福州音	南京音
喉音	于j	王 133	ワン	ワン
		羽 143	ウゝ	ウゝ
		永 245	エン	イン
		蝟 439	ウイ	ウイ
		熊 476	ヒエン	ヒヨン
		猿 481	カア	カウ
		雄 540	ヒヨン	ヒヨン
	羊0	洋 229, 230, 254, 308, 309, 536	ヨン	ヤン
		勤 282	イゝ	イゝ
		油 326	イウ	ユ
		羊 363 ⁷⁸ , 435, 436, 437, 438, 447, 458	ヨン	ヤアン
		陽 511	ヨン	ヤアン
		射 514	ヤア	ヤア
		夜 520	ヤア	エゝ

分紐表を通して、福州音と南京音の声類面に多くの違いが存在していることがわかる。主な点は以下の通りである。

- (1) 「紋、網」など軽唇音微母の字は、福州音はマ行、南京音はア・ワ行となっている。
- (2) 「紬、重、中、潮、長、猪、竹、茶、虫、張」など舌上音（鼻音を除く）は、福州音はタ・テなど破裂音となっているのに対し、南京音は破擦音チ・ツとなっている。
- (3) 「五、鶯、銀、月、原、魚」など疑母の字は、福州音はガ行となっているのに対し、南京音はアヤワ行となっている。
- (4) 「手、水、市、樹」など歯音（生母、常母）の一部は、福州音は

⁷⁸ 明和本の福州音はヨラ。

破擦音チとなっているのに対し、南京音は摩擦音サ行となっている。

(5) 「二、染」など日母の字は、福州音には鼻音ナ行となるものがあるのに対し、南京音は濁音ザ行などとなっている。

(6) 「紅、黄」など喉音の匣母は、福州音はア・ワ行となるのに対し、南京音はハ行となっている。

(7) 「雲」など于母の字は福州音ではハ行となっているのに対し、南京音はア行となっている。

これらの違いが何を意味するのか、その実態は「研究編」において方言資料などを使って改めて考察を行うこととしたい。

主な参考文献

有坂秀世（1938）「江戸時代中頃に於けるハの頭音について」『国語と国文学』昭和13年（三省堂『増補新版国語音韻史の研究』再録 pp.221-243、1957年）

新井白石（1719）「東音譜」（国書刊行会『新井白石全集』第四巻）

池上禎造（1976）『『麤幼略記』解説』（思文閣『陽明叢書国書篇第14輯』中世国語資料』 pp.14-16）

古典研究会（1974）『唐話辞書類集』第16集、汲古書院

財団法人陽明文庫（1976）『陽明叢書国書篇第14輯』中世国語資料』思文閣

蔣垂東（2008）「日本所見三百年前福州方言資料—《麤幼略記》—」

2008年度世界中国語言語学会第16回大会（IACL-16、於北京大学）

＊（2009）『『麤幼略記』所記の福州音について』日本中国学会第61

大会口頭発表

- 〃 (2011)「日本唐話資料里了的“福州音”与“南京音”」『清代民国漢語研究』(韓国)学古房 pp.293-304
- 長澤規矩也(1974)「(『麤幼略記』) 解題」(汲古書院『唐話辞書類集』第16集)
- 馮愛珍(1998)『(現代漢語方言大詞典・分卷)福州方言詞典』江蘇教育出版社
- 北京大学中文系語言教研究室(1989)『漢語方音字匯(第二版)』文字改革出版社
- 宮田安(1979)『唐通事家系論攷』長崎文献社
- 李如龍他(1979)「福州話語音演變概說」(『中国語文』1979年第四期)
- 李如龍、王升魁(2001)『戚林八音校注』福建人民出版社